



里山を拓く：木こりサーファー

日本の白砂青松100選のひとつ「弓ヶ浜」(P.8参照)。この風景を前にすると移住したくなる気持ちが良く分かる。

東京都出身の森広志さん(左)は2008年、石川県出身の北村利弥さん(右)は2011年に南伊豆に移住した。森さんご夫婦でサーフィンが趣味。自然に関わる仕事と環境の良い場所での子育てにも魅力を感じていた。それらの夢は現在の会社に就職することで実現された。

北村さんは、地元の大学で環境科学を学びながら将来は自然や森林と関わる仕事に就きたいと考えていた。卒業間近、静岡県で催された森林の仕事のガイダンスに参加した。そこに

企業の広報として参加していたのが森さん。北村さんは、移住者先輩でもある森さんから仕事や生活の魅力を紹介された。現地に行き、話しどおりの地域の姿に魅せられ、森さんが勤める会社に就職を決めた。

現在、北村さんは、重機やチェーンソーを使つての伐採を担当する。「森林は遠くから見ると綺麗に見えますが、現場に入ると深刻な状態が分かります。」山主の高齢化や後継者不在などが森林放置の進む原因だという。森さんは「森林施業プランナー」の資格を取得し、山主の相談にのったり、山林活用の方法を提案したりして、この課題に対応している。

整備が進む山側に立ち、道路を挟んだ手つかずの、うっそうとした山林に対峙するとその差は歴然である。森さんたちは、整備の後に出現した山の主のような大きな楠がそびえる場所(写真)で会社の事業のひとつであるツリークライミングやアウトドア体験を主催して地域や来訪者に対し森林への理解と交流を促している。

林業は、まったくの一からであったというふたり。林業の知識、技術は森林の中で習得したという。森林の仕事は厳しいが、気持ちに応じてくれるのも森林なのだそうだ。

株式会社いしい林業
森 広志(左)・北村 利弥(右)



ふる里に見つけた：人と自然をつなぐ仕事

シカを狩猟して食べたことはあるだろうか。田植えから収穫までを見守ったことはあるだろうか。月夜の湖面でのカヌーは？里山の間伐体験は？

そんな自然の中での体験イベントや森づくりなどを企画し運営する「ホールアース自然学校」のスタッフのひとり、松本美乃里さん。彼女は、富士宮市にある富士山本校でガイドの仕事を中心に、ネットでの情報発信やプレスリリース、イベントPRなど営業・広報を担当する、いわば「人と自然をつなぐ」役割を担っている。

富士市出身の松本さんは、高校卒業後に地元を離れ、大学で自然や環境を学び、就職先の広告代理店では企画

提案型営業を経験した。

2010年にホールアース自然学校に転職したきっかけは、大学での自然や環境に関するの知識と仕事で得たノウハウを生かせないかと地元に向けたとき、本校を知ったからだ。「自分が育った地域に、恵まれた自然と探していた仕事を発見したことは衝撃的でした。」

松本さんはここでの仕事を通じ、富士山の景観や自然の豊かさ、山と川と海がつながっていることを体感しているという。「山が汚れると、川も海も汚れ、生き物も汚れる。そして、それは私たち人間に返ってくるのです。ここでは机上の情報だけでは得られない発

見や感動があり、同時に森林整備の大切さも理解できます。」

松本さんが地元静岡県に生きがいとともに森林や里山の魅力を見つけたように、我々は自分たちが住む地域の自然を今一度見直してみる必要があるだろう。

本校の体験企画には、気軽に参加できる日帰りプログラムもあるそうだ。まずはそこを入りに、自然と関わってみたらどうかと勧められた。

この富士山の懐に抱かれた山や森、川で過ごす—。

想像ただけでワクワクする。

ホールアース自然学校
ガイド兼広報&営業担当 松本美乃里



不撓^{ふとう}を富士に学ぶ：現代の『棟梁^{とうりょう}』を育てる学校

日本に日本建築・木造建築を総合的に学べる大学が現在いくつ存在するかご存じだろうか。

富士山麓に建つ「日本建築専門学校」は、日本の伝統建築技術が失われていくことを憂い、宮大工棟梁であった故・菊池安治氏と中村昌生 京織大教授を中心に同じ思いを抱く関係者の尽力によって1987年に創立した学校である。

「こんにちはー！」来訪者は、志を立て全国から集まった若者たちの元気な声で迎えらる。本校の教育理念は、大工、設計者、現場監督者の要素を担える素養豊かな技術者を育てることだという。「言わば、現代の『棟梁』を育てる日本唯一の学校です。」

と吉江勝郎校長は胸を張る。建築家である吉江氏は創始者の念を継ぎ、自らも教鞭をとる。全寮制で4年間を過ごす学生たちと、時に食事をしたり、お風呂に入ったりと生活を共にする。

本校のカリキュラムは、座学とともに豊富な実学を基盤とし、4年制大学と同等の教育研究と建築士や技能などの受験資格が得られることが特色である。就職率100%、これまでに多くの優秀な卒業生を輩出し、彼らは宮大工や設計者、工務店経営者として建築業界で活躍する。

木造の学舎は木造建築技術の粋を集めて建てられた堂々とした立ち姿。学生は居ながらにして最高の木造建築

に触れる。そして、不撓(ふとう)を富士に学ぶ(苦労や困難にくじけないことを富士山に学ぶ)―本校の立地は日本建築を学ぶにあたり、心の拠り所となる霊峰富士を目前にする地として選ばれたという。また、校則は「他人への気配り」以外は特になく、自律を信頼する学校の姿勢に学生たちは応える。世界に誇る日本建築技術の継承の聖地にふさわしい。

学校法人富嶽学園 日本建築専門学校
校長 吉江勝郎